

■ まちの課題・目指すまちの姿

瑞浪駅周辺は瑞浪市の中心市街地であるものの、商店街やまちなみは、整備されてから40年以上経過し、建物の老朽化や住民の高齢化、さらに、商店街の賑わいの喪失、空き店舗・空き家の増加等、まちとして多くの課題を抱えています。

市内には高校が3校あり、これらの学生を含め、瑞浪駅は1日の乗降客数が1万人近くあります。しかしながら、まちに滞在する目的や場所が無いため、学生や駅利用者が、まちを素通りしている状況です。

これらの課題を解決し、中心市街地として相応しい、活気・魅力あるまちにしていけることが求められています。

■ 瑞浪駅周辺まちづくり全体コンセプト

未来の子どもたちに渡せるまち

～瑞浪らしさを活かした多世代交流空間の創造～

私たちがこれから考えていく「まち」は、未来の子どもたちが主役です。未来の子どもたちが暮らしたいと思える「まち」づくりが必要です。誰だってお荷物や負債は「受け取りたくない」「のこす」はどんなものでも残せますが、「わたす」は受け取ってもらえるものでなければなりません。どんなまちだったら、子どもたちは受け取ってくれるのか？

■ まちづくりのための社会実験

様々な社会実験を通じて、まちの賑わいづくりや市民ニーズについて検証し、まちづくりに反映しています。



■ 瑞浪駅周辺まちづくり全体像 ※現段階のイメージです



■ 駅北地区 官民連携による事業手法にて整備

中央公民館、図書館を駅北地区へ集約し、新たな機能を加えた複合公共施設を計画しています。新しい施設は、市民の皆さんだけでなく、周辺地域の人々も訪れたい「市民や東濃地域のサードプレイス（自宅、学校・職場以外の居心地の良い場所）」と位置付けます。図書館利用以外の人も訪れ、図書や市民活動等に触れる機会となるような施設を目指します。市民ニーズの高いカフェ等の併設、式典や市民活動の発表ができる多目的ホールや貸しスペース、充実した学習や閲覧室、気兼ねなく使えるキッズスペース等を整備します。

誰もが気軽に立ち寄ることができる居心地の良い空間を作り、様々な目的の人に利用される複合施設を目指します。

○ 施設整備運営方針

- ・瑞浪市公共施設再編成プランにより、既存施設を集約再編し、床面積は減少、必要機能は維持する。
- ・民間活力を導入し機能とサービスの向上、財政負担軽減を基本の方針とし、「滞在型」に重点を置いた機能の導入を図る。

○ 事業スケジュール案

令和5～6年度	整備手法検討・土地建物等調査
令和7～8年度	事業者公募・施設の設計
令和9～10年度	施設整備工事
令和10年度末～	施設開業・運営開始

※概ねの時期であり、事業の進捗によって変更する可能性があります。

○ 施設集約のイメージ

現 状

中央公民館

・瑞浪市直営
・リハール室等の特定の部屋の利用率が高い
・固定式780席ホール使用はリハを合わせ30日程度稼働

床面積約6,000㎡

図書館

・指定管理者による運営
・年間利用者5万人
・WEBアンケートでは、75%が1年以内の利用なし

床面積約1,200㎡

計 画 案

ホール・貸室機能

◆機能重複・利用率の低い諸室を再編

- ・多様な利用者とニーズに応える稼働性の高い空間の整備
- ・現施設の席数780席⇒400人程度収容の多目的空間に再編
- ・利用空間の調整と防音機能を備えた貸しスペースの充実

図書館機能

◇閲覧席・学習席の拡張

- ・滞在サロン型図書館への転換、目的別学習席の増設
- ・利用者の拡大と利用方法の多様化や発見を追求
- ・居心地の良さ、カフェ等の付加機能の充実

○ 導入機能イメージ写真

新しい施設には書架や本を閲覧する場所以外にも、様々な機能を追加することを検討しています。



■ 駅南地区 第1種市街地再開発事業（組合施行）推進中

駅に隣接する交通利便性の高い場所に、地権者だけでなく新たに住みたい人も入居できるマンションと、飲食店やスーパー・コンビニ等の店舗が入った再開発ビルを整備し、まちの利便性と魅力の向上を図ります。併せて、駅前広場の拡張と、歩道を含めたオープンスペースの整備を行い、居心地が良く歩きたくなるまちなみとします。地域住民だけでなく多くの人が訪れて憩い、利用できる場所とすることで、中心市街地として賑わうまちを目指します。

駅南地区と駅北地区が、快適かつスムーズに往来できるアクセス方法も検討しており、駅周辺が一体となってまちの魅力・活力を高めていくことを目指します。

○ 駅南地区事業のおおまかな手順

